

§ 2.3 3次元実ベクトル

実数の3項組の全体

$$\mathbf{R}^3 = \{ (x, y, z) \mid x, y, z \text{ は実数} \}$$

において以下のような演算を考えます. 各実数 $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ について, \mathbf{R}^3 の要素 (a_1, a_2, a_3) と (b_1, b_2, b_3) との和を次のように定義します:

$$(a_1, a_2, a_3) + (b_1, b_2, b_3) = (a_1 + b_1, a_2 + b_2, a_3 + b_3).$$

この和をベクトル和といいます. 更に, 各実数 a_1, a_2, a_3, p について, 実数 p と \mathbf{R}^3 の要素 (a_1, a_2, a_3) との積を次のように定義します:

$$p(a_1, a_2, a_3) = (pa_1, pa_2, pa_3).$$

この積をスカラー倍といいます.

実数 x と y と z との3項組 (x, y, z) にベクトル和及びスカラー倍の演算を行うとき, 実数の3項組を**3次元実ベクトル**¹⁾ (3-dimensional real vector) あるいは**空間ベクトル**あるいは略して**ベクトル**といいます. 3次元実ベクトルに対して実数のことを**スカラー**といいます. 3次元実ベクトル (x, y, z) を構成する実数 x と y と z とをベクトル (x, y, z) の**成分**といいます.

例 3次元実ベクトル $(-2, -3, 4)$ と $(-5, 7, -9)$ とのベクトル和は

$$(-2, -3, 4) + (-5, 7, -9) = (-2 + (-5), -3 + 7, 4 + (-9)) = (-7, 4, -5).$$

3次元実ベクトル $(5, -7, 9)$ の $\frac{3}{4}$ 倍は

$$\frac{3}{4}(5, -7, 9) = \left(\frac{3}{2} \cdot 5, \frac{3}{2} \cdot (-7), \frac{3}{2} \cdot 9 \right) = \left(\frac{15}{2}, -\frac{21}{2}, \frac{27}{2} \right). \quad \text{終}$$

実数 x と y と z との3項組 (x, y, z) を3次元座標空間の点 (の座標) と考えるとき, 2.1節で述べたように, 実数の3項組の全体 \mathbf{R}^3 は座標平面です. 実数 x と y と z との3項組 (x, y, z) を3次元座標空間の点 (の座標) と考えるとき, 実数の3項組の全体 \mathbf{R}^3 を3次元実ベクトル空間といいます. ですから, 実数 x と y と z との3項組 (x, y, z) は, 3次元座標空間の点と考えることも3次元実ベクトルと考えることもできます. 3次元座標空間の点と考えると和とか積とかの演算はできません. しかし, 3次元実ベクトルと考えるとベクトル和およびスカラー倍の演算ができます.

以後, 3次元実ベクトルを太文字で表します.

3次元実ベクトル $(0, 0, 0)$ を**零ベクトル**といい, $\mathbf{0}$ と書き表します²⁾:

$$\mathbf{0} = (0, 0, 0).$$

定理 2.3.1 零ベクトル $\mathbf{0}$ 及び任意の3次元実ベクトル \mathbf{a} について $\mathbf{0a} = \mathbf{0}$.

証明 実数 a_1, a_2, a_3 に対して $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$ とおくと,

$$\mathbf{0a} = 0 \cdot (a_1, a_2, a_3) = (0 \cdot a_1, 0 \cdot a_2, 0 \cdot a_3) = (0, 0, 0) = \mathbf{0}. \quad \text{(証明終り)}$$

定理 2.3.2 零ベクトル $\mathbf{0}$ および任意の実数 p について $p\mathbf{0} = \mathbf{0}$.

証明 $\mathbf{0} = (0, 0, 0)$ なので,

$$p\mathbf{0} = p \cdot (0, 0, 0) = (p \cdot 0, p \cdot 0, p \cdot 0) = (0, 0, 0) = \mathbf{0}. \quad \text{(証明終り)}$$

3次元実ベクトル \mathbf{a} に対し, 実数 -1 とベクトル \mathbf{a} とのスカラー積 $-1\mathbf{a}$ を $-\mathbf{a}$ と略記します: $-\mathbf{a} = -1 \cdot \mathbf{a}$. 3次元実ベクトル空間 \mathbf{R}^3 のベクトル \mathbf{a} に対して, ベクトル $-\mathbf{a}$ を \mathbf{a} の逆ベクトルといいます.

定理 2.3.3 各実数 a_1, a_2, a_3 について, 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$ に対して $-\mathbf{a} = (-a_1, -a_2, -a_3)$.

証明

$$-\mathbf{a} = -1 \cdot (a_1, a_2, a_3) = (-1a_1, -1a_2, -1a_3) = (-a_1, -a_2, -a_3). \quad \text{(証明終り)}$$

3次元実ベクトル \mathbf{a} と \mathbf{b} とに対し, $\mathbf{a} + (-\mathbf{b})$ を $\mathbf{a} - \mathbf{b}$ と書き表します:

$$\mathbf{a} - \mathbf{b} = \mathbf{a} + (-\mathbf{b}).$$

定理 2.3.4 各実数 $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ について, 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$ と $\mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$ とに対して $\mathbf{a} - \mathbf{b} = (a_1 - b_1, a_2 - b_2, a_3 - b_3)$.

証明

$$\begin{aligned} \mathbf{a} - \mathbf{b} &= \mathbf{a} + (-\mathbf{b}) = (a_1, a_2, a_3) + (-b_1, b_2, b_3) \\ &= (a_1, a_2, a_3) + (-b_1, -b_2, -b_3) = (a_1 + (-b_1), a_2 + (-b_2), a_3 + (-b_3)) \\ &= (a_1 - b_1, a_2 - b_2, a_3 - b_3). \end{aligned} \quad \text{(証明終り)}$$

例 3次元実ベクトル $(7, 4, 6)$ から3次元実ベクトル $(2, -5, 8)$ を引くと

$$(7, 4, 6) - (2, -5, 8) = (7 - 2, 4 - (-5), 6 - 8) = (5, 9, -2). \quad \text{終}$$

例題 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (9, -6, 4)$ と $\mathbf{b} = (7, 2, -5)$ とに対してベクトル $3(\mathbf{a} - \mathbf{b})$ を計算する.

$$\begin{aligned} 3(\mathbf{a} - \mathbf{b}) &= 3\{(9, -6, 4) - (7, 2, -5)\} = 3(9 - 7, -6 - 2, 4 - (-5)) \\ &= 3(2, -8, 9) = (3 \cdot 2, 3 \cdot (-8), 3 \cdot 9) \\ &= (6, -24, 27). \end{aligned} \quad \text{終}$$

例題 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (4, 9, -8)$ と $\mathbf{b} = (5, -7, 6)$ とに対してベクトル $3\mathbf{a} + 2\mathbf{b}$ を計算する.

$$\begin{aligned} 3\mathbf{a} + 2\mathbf{b} &= 3(4, 9, -8) + 2(5, -7, 6) = (3 \cdot 4, 3 \cdot 9, 3 \cdot (-8)) + (2 \cdot 5, 2 \cdot (-7), 2 \cdot 6) \\ &= (12, 27, -24) + (10, -14, 12) = (12 + 10, 27 + (-14), -24 + 12) \\ &= (22, 13, -12). \end{aligned} \quad \text{終}$$

問題 2.3.1 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (3, -9, 8)$ と $\mathbf{b} = (4, 6, -2)$ とに対してベクトル $5(\mathbf{a} + \mathbf{b})$ を計算しなさい.

問題 2.3.2 3次元実ベクトル $\mathbf{a} = (9, -2, 4)$ と $\mathbf{b} = (8, 7, -6)$ とに対してベクトル $5\mathbf{a} - 3\mathbf{b}$ を計算しなさい.

例題 次のような実数 x と y と z とを求める:

$$x(3, -6, 1) - (-1, 6, 5) = y(-6, 4, 2) + z(-8, 1, 3).$$

この等式の左辺は

$$x(3, -6, 1) - y(-6, 4, 2) - z(-8, 1, 3) = (3x + 6y + 8z, -6x - 4y - z, x - 2y - 3z).$$

$x(3, -6, 1) - y(-6, 4, 2) - z(-8, 1, 3) = (-1, 6, 5)$ より,

$$(3x + 6y + 8z, -6x - 4y - z, x - 2y - 3z) = (-1, 6, 5),$$

$$3x + 6y + 8z = -1 \quad \text{かつ} \quad -6x - 4y - z = 6 \quad \text{かつ} \quad x - 2y - 3z = 5.$$

この連立方程式を解くと $x = 3$ かつ $y = -7$ かつ $z = 4$. 終

問題 2.3.3 次のような実数 x と y と z とを求める:

$$x(-3, 1, 4) - y(-6, 3, 2) - z(8, -6, 1) = (7, -3, 3).$$

例題 3次元実ベクトル \mathbf{x} に関する方程式 $8\mathbf{x} + (-2, 7, 5) = 3\mathbf{x} + (6, 4, 9)$ を解く.

$8\mathbf{x} + (-2, 7, 5) = 3\mathbf{x} + (6, 4, 9)$ より,

$$8\mathbf{x} - 3\mathbf{x} = (6, 4, 9) - (-2, 7, 5),$$

$$5\mathbf{x} = (8, -3, 4),$$

故に $\mathbf{x} = \frac{1}{5}(8, -3, 4) = \left(\frac{8}{5}, -\frac{3}{5}, \frac{4}{5} \right)$. 終

問題 2.3.4 3次元実ベクトル \mathbf{x} に関する方程式 $4\mathbf{x} - (2, 9, -8) = -3\mathbf{x} + (6, -7, 5)$ を解きなさい.

1) 実ベクトルとは成分が実数であるベクトルのことです.

2) 平面ベクトルの零ベクトル $(0, 0)$ と3次元実ベクトルの零ベクトル $(0, 0, 0)$ とは別物なので, 本来は, 例えば ${}_2\mathbf{0} = (0, 0)$ と ${}_3\mathbf{0} = (0, 0, 0)$ とかのように, 異なる記号を使うべきです. しかし, 平面ベクトルか3次元実ベクトルかは大抵は文脈で分かるので, どちらの零ベクトルも $\mathbf{0}$ で表します.